

優秀賞

01 着想: いつの日も向かい風を探す風見鶏

風見鶏は、向かい風の方向を常に向いている。その姿は風向きを教えるだけでなく、風の方向を向きながら健気に生きているかのようである。人も風見鶏のように生きていくことはできないだろうか。



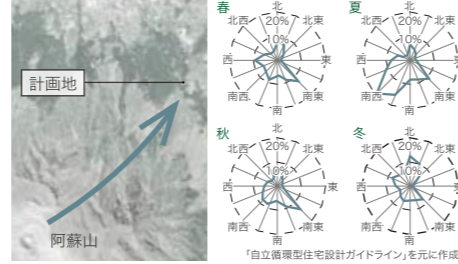
02 敷地: 風が風景を連れてくる阿蘇

敷地は、広大なカルデラが広がる阿蘇である。火口では、風に乗って硫黄のにおいがし、春の野焼きのときには火を広げ、夏の草原は草が風に舞い、秋にはススキが風に揺れる。阿蘇の風景は風が連れてくる。



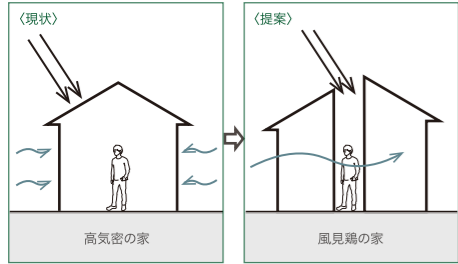
03 環境: 特異な地形による「阿蘇おろし」

阿蘇地域では、カルデラの特異な地形により「阿蘇おろし」と呼ばれる風が吹く。計画地は、南西に阿蘇山が位置し、夏の風が阿蘇おろしとして多く吹く。しかし谷地でもあり、季節によって風向は変わる。



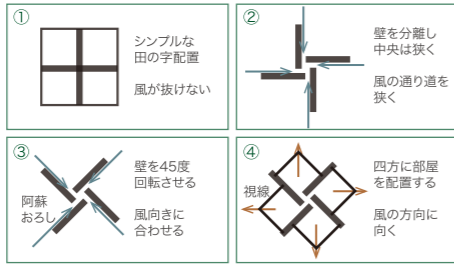
04 提案: 私は風見鶏で、家は風の通り道

現在の戸建て住宅は高気密・高断熱がうたい文句になっている。これでは風景と調和しているとは言い難い。そこで、風と共に阿蘇の風景が入り込んでくるような家を提案する。人は風を探しながら生きていく。



05 計画: 風を引き込ませ、抜けさせる方法

カルデラが切れる西側では、阿蘇おろしが狭谷地に流れ込むことにより「まつぼり風」という局地風が発生する。この仕組みはベンチュリ効果と呼ばれる。風の通り道を狭くし、抜けさせるこの効果を採用する。

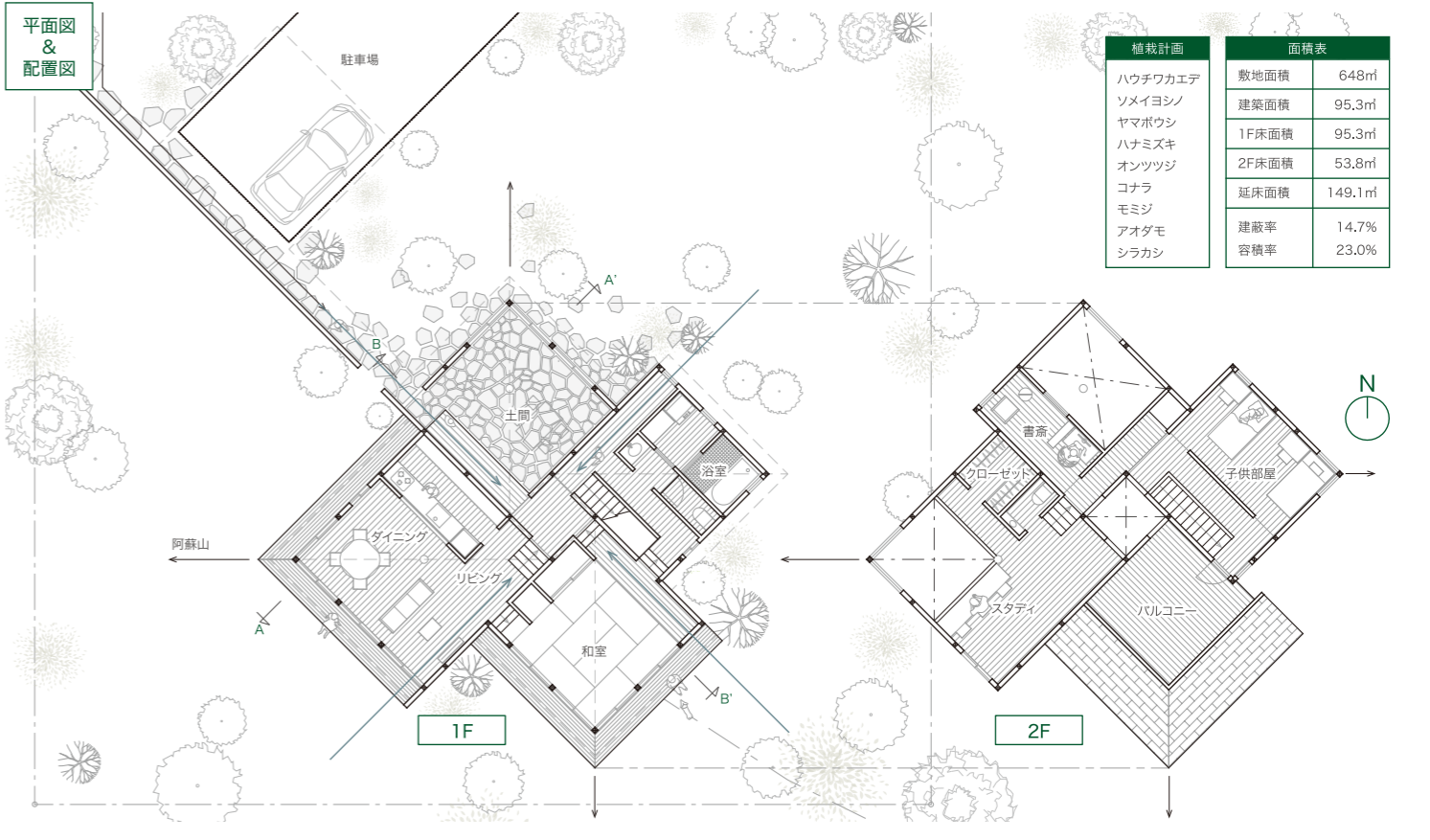
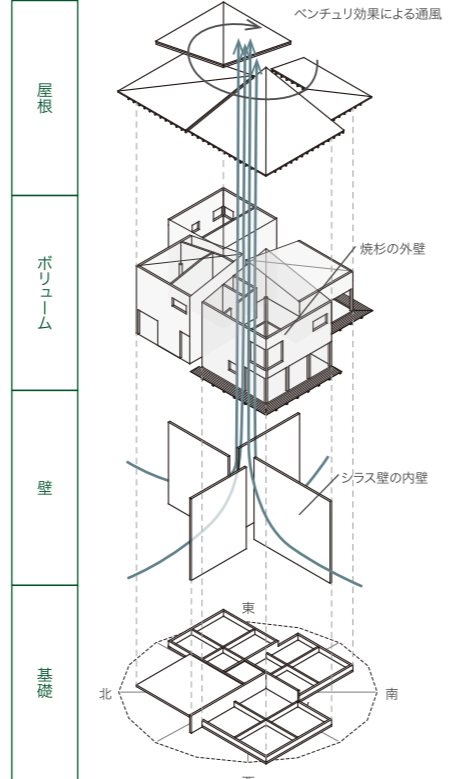
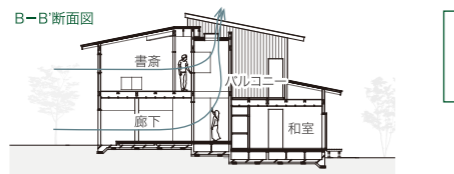
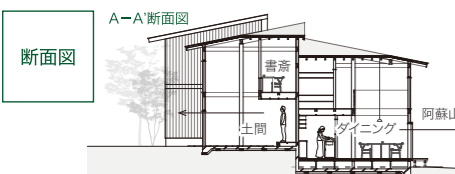
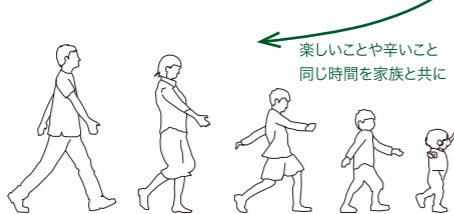


06 素材: 阿蘇の風景の一部になるための素材



07 家族: 同じ方向を向いていた5人家族

都会での生活は食事や就寝の生活リズムがお互いに合わず、異なる方向を向いているようだったため、風見鶏のようにどんな時も同じ方向を向いて生活することを考え、阿蘇に移り住むことを決意した。



植栽計画	面積表
ハウチワカエデ	敷地面積 648㎡
ソメイヨシノ	建築面積 95.3㎡
ヤマボウシ	1F床面積 95.3㎡
ハナミズキ	2F床面積 53.8㎡
オンツツジ	延床面積 149.1㎡
コナラ	建蔽率 14.7%
モミジ	容積率 23.0%
アオダモ	
シラカシ	

設計コンセプト

私は「風」を自然素材のひとつと捉え、サステナブルな住まいを提案する。建築内で消費するエネルギーを自然エネルギーに頼り、利用することは、非常に有効である。本提案では風を有効利用した建築の可能性を探る。

現在の戸建て住宅は高気密・高断熱がうたい文句になっているが、これでは機械空調に頼らざるを得なくなり、消費エネルギーが大きく、サステナブルな住まいとは言えない。

計画地は熊本県阿蘇である。この地では、カルデラの草原の野焼きに代表されるように、千年にわたって環境と人間のサステナブルな営みが繰り返されてきた。また阿蘇の特異な地形が地域風をもたらし、春には野焼きの火を広げたりと、阿蘇の風景は風が連れてくる。阿蘇にとって風は、建築をつくる上で自然

審査委員講評

伝統的な「田の字型プラン」の壁を少しずらすだけで風の通り道をつくりだす計画です。阿蘇の季節風で建物の向きを決め、中央の吹き抜けて風を逃しています。敷地段差に合わせてスキップフロアーにしている断面計画も風の流れと呼応するかのようです。シンプルで明快な提案に好感を持ちますがベンチュリ効果をうたうのであれば、吹抜け上部の構造、高さにさらなる提案を期待します。



玄関までのアプローチは、鉄平石が敷かれ、風の流れと一緒に家に歩いていく。



玄関を入ると、鉄平石が敷き詰められた土間になっている。北側からの風が空間を冷たくし、抽象的な空間にする。



居間は、一年を通して南西からの風が通り抜け、家族の集場所になる。大きく空いた窓から阿蘇山を望む。